

心とした生活指導の線で実践している。それが、本校の実情に即した指導のやり方であると思う。

なお、指導の成果ということになると、必ずしもそれが顕著に表われない場合も多く、特に、本校の場合、ノイローゼとか、非行とかいうはつきりした事態を生じたわけでないので、一層その成果を具体的に確めることが困難である。更に、発表の関係で10月中旬までの記録であるため、中間発表という程度の内容であることを容赦されたい。

2. YGテストにみられる本校生徒の特色

イ. 過去3カ年の所見

本校生徒の33, 34, 35年度各学年のYGテストの性格特性別の相対度数分布図表(分率)は、図1より図13に示す通りである。

この諸図表より推察しうことは、

- (1) S(社会的内向)は、3学年に至つて急激に増加を示している。
- (2) D(抑鬱性)学年が進むにつれて、増加している。
- (3) N(神経質)3学年生に神経質の傾向が目立つてくる。
- (4) G(一般活動性)3カ年を通じて低い値を示している。
- (5) A(支配性)3カ年を通じて大である。

以上のような諸点であるが、このうち、われわれとして興味あり注意を要することは、S, D, Nの諸項が学年が進むと共に、特に3学年に至つて顕著な差異がみられることである。

こうした特色が他の高等学校の学年別度数分布表にみられるものであろうか。

ロ. 他校との比較

図14から図17を参照していただきたい。石川県及び福井県の全日制高校生約5千人の統計である。

D(抑鬱性)において同様の傾向がみられるが、他のS, N, G, Aには著しい傾向は見出せない。即ち、S, N, G, Aは本校のみにみられる特色といえよう。

また、全校平均の比較は、図18より図21に示したものである。

本校の特色といえるものは、上記にみる通りであるが、全般的にみて高校と大学の中間の値を示しているようである。

この全校平均の比較からみられることは、S, T, D, R, G, Ag, Coに差異が認められ、特にR, Ag, Coに大きな差異がある。

ハ. 本年度統計結果図22より図25に示すものが、それであり、上記所見と殆ど同様である。

ニ. 33年以降本年に到る各項の平均値及び標準偏差値を参考までに示しておこう。

年 度	学 年		S	T	D	C	R	G	A	I	N	O	Ag	Co	K
33	1	M	9.81	9.77	8.79	8.88	10.09	9.57	11.04	11.03	8.41	5.94	9.31	6.61	
		σ	6.38	3.93	6.56	4.33	4.63	4.24	5.22	4.99	5.18	3.31	3.97	3.19	
34	2	M	9.88	10.01	11.10	9.75	9.54	9.73	11.50	9.27	8.95	7.19	8.09	7.38	26.87
		σ	4.99	4.46	5.35	4.93	4.68	4.89	5.51	5.16	4.42	3.81	3.83	3.88	4.17
35	1	M	9.42	11.28	9.21	8.94	9.35	10.49	10.06	7.76	8.05	6.24	8.66	6.84	26.06
		σ	4.83	4.39	4.97	4.58	4.45	4.32	4.95	4.23	4.29	3.77	3.80	3.43	7.17
	2	M	10.72	10.77	10.88	10.37	9.79	8.53	12.38	9.64	9.44	7.97	8.69	7.74	27.89
		σ	5.33	4.45	5.56	4.98	4.75	5.12	5.36	5.54	4.87	4.45	4.05	4.07	8.56
	3	M	10.85	10.42	11.21	10.28	9.90	9.74	11.77	8.72	9.46	7.49	9.23	8.37	27.39
		σ	5.30	4.32	5.74	5.07	5.01	4.92	5.61	5.23	4.52	3.62	4.24	4.64	3.86
36	1	M	8.81	10.42	8.88	10.60	10.75	10.85	10.07	7.78	8.61	7.28	9.75	7.03	25.75
		σ	4.58	4.08	5.39	4.72	4.44	4.37	3.52	4.76	4.54	3.85	4.09	3.89	8.18
	2	M	10.06	10.87	9.19	8.94	9.76	10.21	10.35	7.07	8.08	6.47	9.10	6.92	25.98
		σ	5.09	4.89	5.29	4.54	4.61	4.48	3.62	4.54	4.36	3.93	3.75	3.94	7.85
	3	M	10.01	9.97	9.82	9.77	10.06	9.27	11.27	8.03	9.06	7.53	8.80	7.02	26.81
		σ	5.36	4.49	5.81	4.93	4.81	5.27	4.00	4.60	4.71	4.27	3.89	4.19	8.83

M (平均) σ (標準偏差)

3. 問題生徒の発見

イ. YGテスト本年度調査結果

36年5月18日実施(再調6月13日)

調査人員 487名

問題生徒 30名(6.2%)

 N型 18名

 S型 1名

 E型 1名

 要観察 6名

 Iの原因追求 4名

ロ. ホーム主任の継続観察

 問題生徒のYG個票(図26より図32)

 行動記録

 原因の追求(家庭, 交友, 学業, 身体等)

 指導記録

 (実例は後出)

ハ. 意志気質テストの所見

前に述べたように, 意志気質テストは本校で初めての試みで, その信頼度や, 判断の資料と

しては、多少不安な気持ちが残るので、来年度も継続するか否かにも疑問が残り、本年度の所見についても明確な自信は持っていないのであるが、一応、同テストに表われた異常生徒と見なされるものは45名で、全生徒の約一割である。もっともこれは、YGテストで発見された所見よりも、ずっと軽度のものを含めているので、特に著しい問題生徒という点になると、その判断に未熟な点があるので了承していただきたい。

1) 消極型で思慮型のもの、神経質とか憂うつ性で陰気な感じのするもの、自信がなく本校生徒の最もおちいり易い型である。8名

2) 消極型ではないが思慮型で自信が少ないもの。5名

3) 全般に消極的のもの。18名

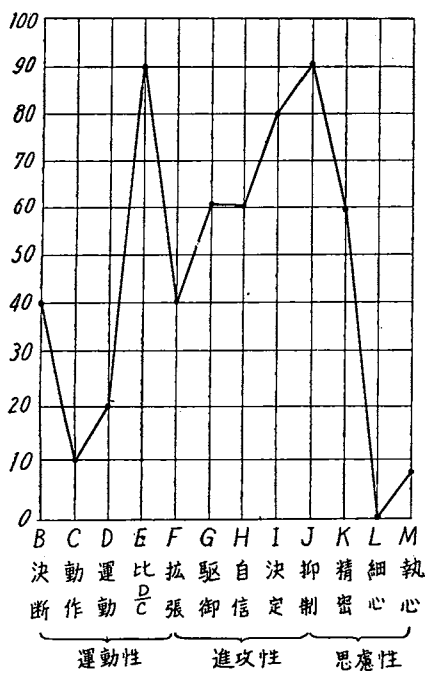
4) 不定型、もしくは積極型ではあるが、細心、執心度が極めて低く、その他の点から見て、ともすれば非行型になりやすいもの。9名

5) 進行型で気短かな、情緒不安定な傾向にあるもの。5名

又、YGテストと同様の所見があるものは14名あり、両テストの傾向が必ずしも関連なしとは言えないけれども、両者の比較研究は問題として残ろう。ただし、これは問題生徒についてであるから、他の多くの健康な生徒については共通点もずっと多いものと思う。また、取上げた生徒のうち、教師の観察と全く逆な現象の生徒が10名発見されたことも問題が残るかも知れない。しかし、客観テストが万能でない如く、主観的観察も万能とは言えず、両者相補って、一層精密な発見に向って努力してゆくべきであろうと思う。従って両者の食い違いについても、潜在的な性格も考えられ、あるいは科学テストの誤差も考えられ、その一事のみで信頼性を云々するのは早急な軽挙と言うことができよう。

意志気質テストの例

40 10 20 90 40 60 60 80 90 60 0 10 具体例(a)のM生徒



不定型
 細心、執心が極めて低い(L.M)
 B.C.D.Fが低い。
 H.I少々大
 以上で多少性格異常の傾向がある。

3. 指導事項。

の3項目にわたって記録する。

1については、イ. YGテストで、ロ. 意志気質テストで、ハ. 教師の日常観察での三点から眺めて問題生徒を抽出し、その生徒の中学時代の資料や自叙伝、家庭、交友、学業成績その他にわたっての詳細な行動記録と、ホーム主任の判断その他を記録する。2ではその問題事項発生の原因について調査するもので、体質的、精神的、身体的、環境的な各方面について出来る限り精密な原因を探求する。問題生徒の中で、体質的な原因と思われるものは勿論あるけれども、それらの先天的素質が、学業成績の不振からくる劣等意識とか、家庭環境がもたらす諸因が原因となって一時的な異常現象を示す事が相当に多い。第3の指導事項は、観察事項と相表裏して行われるわけであるが、個人面接、家庭訪問、校医その他の施設との連絡などによって行なっている。

すでに述べたように、YGテストや意志気質テストは、客観的な問題生徒の発見法の一つではあるが、それがすべての生徒に無条件に信用できる資料とは思われず、最も身近に生徒と接触している教師の日常観察の重要さも尊重しなければならない。以下の具体例6人は、(a)例は詳細な記録で、YG、意志気質の両テストにも教師の観察の上でも極めてその性格がよくあらわれているものである。(b)例以下は、記録の抜粋であって、(b)は成績の不良からくる劣等感が観察されている上に、YG、意志気質テストにも発見されたもの。(c)はYGでは異常あるも意志気質テストでは普通の結果であり、観察ではやはりYGテストを裏づけするものが見られる。(d)はYG、意志気質、観察ともに同様の所見。(e)は両テストには目立ったものがないが、教師の日常観察で極めて特異な状態を呈している例である。しかし、YGでは他人に自己をよく見せようとしている傾向があらわれ、多少は、日常観察と一致している面も考えられる。(f)は両テストには異常は殆ど見られないが、観察で配慮すべき状況が見受けられる例である。

指導の具体例

(a) 2年a組 M生徒観察指導記録 ホーム主任

4月11日(火)

始業式クラスの編成がえによりM生徒は私のクラスにはいる。1年のとき、M生徒のクラスの授業も担当せず、これまであまり関心を持ってなかった。ただ、毎学期末にある成績会議で男子で最下位ある。

4月12日(水)

補導部員および1年の時の主任に様子を聞く。成績に対して相当な劣等感を持っているとの事。補導部に保管されている、本人が1年の夏休みに書いた自叙伝を読む。中学および高校の指導要録、環境調査書などで、本人の経歴を徹底的に調べる。

4月14日(金)

ホームの生徒と個人懇談を行っていたが、今日、本人といろいろ話合いをする。概略は次のとおり。

「父は軍医で戦死す。本人がまだ母の胎内にいた頃で、父の顔は知らない。生まれたのは隣のM市で戦災にあい、父の本籍地のT村に母と2人で行く。戦後の農地改革で土地を失い、苦しむ。5才のとき、母の姉の家に世話になる。主人は某銀行の要職にある。本人の小学生時代は非常に良い成績であり、短距離なども早かった由。ただ運動会の賞品には極度に興味があつたようだ。母と2人で叔母の家に世話になっている関係で、母が叔父に対する気兼ねや、子供の成績のみえなど、相当あつたもよう。難関とされた金大付中の入試に合格してから、叔父が非常に期待をかけ、子供のない関係でゆくゆくは自分の後継者にする心積りをもつ。学校の関係で母と2人で金沢市内に下宿。1年2学期末、腸チフスを患い、長期欠席。その後学習で相当おこなれていることを自覚しだす。付中時代の成績は下の方でたいした変化なく、本校に入学のさい内申

では入学不可能の状態であったが、試験の結果は最下位で合格。成績の悪いことを意識しておった。1年の成績は毎学期極めて悪い。それも、2学期、3学期と下落している。チブス罹病後、しばしば腹痛あり、月に1回はそのために欠席している。」

4月18日(火)

金石方面に遠足、特別他の生徒と遊離しているようにも見えない。ただ活気に乏しく弱々しい感じである。

4月21日(金)

第3限、生徒会総会。この時間のみ本人の姿が見えぬ。

4月24日(月)

球技大会。朝登校していたが、いつのまにか姿が見えない。生徒会やホームルームの行事には発言のないことは勿論、よく欠席する傾向がある。

4月27日(木)

腹痛のため欠席。

5月4日(木) 5日(金) 6日(土) 同じく腹痛欠席。

5月7日(日)

本人の母が拙宅に来らる。本人が勉強おくれ、授業についてゆけないと云って毎日いらいらしている由。なんとか個人的に指導してくれと頼まれる。数学を通じて本人と接触、数学だけでもある程度の自信をもたせたいと思って引受ける。

5月9日(火)

毎週火曜夕、家に通わせることにした。まず勉強の仕方などを話し合う。ともかく勉強が嫌だとか、授業中指名されるのが苦痛など語る。劣等感の原因は成績の為である。今から勉強しても決しておそくはない、これから頑張ったら大丈夫だとはげます。

5月15日(月)

運動会、ホームのものとの一緒に出場したり応援したりで、比較的元気な様子。

5月16日(火)

勉強に来る。私が勉強部屋に行くまでの間何もせずただ坐っている。普通の生徒ならたいてい自習して待っている。学校で今日習った所でも、もう一度個人的に説明せねば手をつけない。その演習問題を自分でやるという意図が全くない。

5月18日(木)

YGテスト、第5限に実施。このテストが性格調査であることを知っているのか否か、この時間から早退、受験せず。

5月19日(金)

昨日の早退の理由を尋ねると腹痛とのこと。それ以上追求することをひかえた。

5月23日(火)

明日から中間考査が始まるのに勉強にくる。最近割合に熱心。問題をやらせても、基本的なことは案外よく理解している。ただ解き方が機械的で、本当に理解しているとも思われない点も見受ける。全然わからないのではなく、自分ひとりですることが不安のようだ。説明している時には、私の顔をじっと見つめているくせがある。

5月27日(土)

昨日で中間考査終り。1, 2限は校庭の除草, 3, 4限はソフトボール大会。除草もまじめであり、試合も皆と一緒に応援。まじめに出席するようになって希望が持てて嬉しい。

5月30日(火)

YGテストの不備な生徒に対して再テスト。このときは受験した。

6月5日(月)

補導部からYGの結果を見せてもらう。

	S	T	D	C	R	G	A	I	N	O	Ag	Co	K
本年	18	12	17	18	11	0	22	20	16	18	8	16	41
昨年	20	12	18	14	10	1	18	20	16	17	8	12	40

やはり極端に劣等感があり、一般的活動性に乏しい。補導部員からいろいろ意見を聞く。Kの値が高いからやや偽悪的解答とも云えるが、1、2年とも大差ないので信頼できよう。神経症型に属するものであること。

6月8日(木)

ホームの体育の授業を見る。走り巾飛びをやっていたが、平素の彼には見られないファイトでとんでいる。その距離もクラス平均より良いのではなかろうか。嬉しくなった。内面にはやろう、やりたい気持ちがひそんでいるのではなかろうか。

6月13日(火)

毎週、欠かさず勉強にやる。今日、始めて予習してきた。少し積極味が出てきたように見える。ちよっとの良さも大いにほめてやる。

6月19日(月)

数Ⅱの授業のとき、あらかじめ指名されていた問題ではあるが、非常な努力のあとが見えた。数Ⅲの解き方(合成関数の微分)で変化率を求めている。私の個人指導でも、学校の授業でも教えていないので、多分何かの参考書をひっぱりまわして写してきたか、解き方をまねておったかであろう。いずれにしろ、指名されて出来ませんと答えるのが苦痛のよう。

6月27日(火)

意志気質テストあり。本人も受験した。

6月28日(水)

アセンブリーの時間、クラス対抗の合唱コンクール行われる。本人も出場、舞台上立つ。

7月4日(火) 5日(水)

腹痛にて欠席、私の所へ勉強にも来ない。2カ月程腹痛がなかったのに、何が原因なのか。3日に学期末考査の時間割が発表になっているが、今までの様子では期末考査の発表位で弱とは思われない。中間考査の際は無事に乗り切れたはずである。しかしそのためか。あるいは生徒間に何かあったのか。授業中に何かあったのか。精神的なものでなく、事実身体的なものか。他の生徒にそれとなく聞くが、はっきりした原因はつかめぬ。久しく腹痛を起したことがないのに、残念である。

7月6日(木)

本人を呼んで腹痛について詳しく尋ねる。始め軟便が出、その後で、その軟便が全く出なくなるとの事、かかりつけの医師に手当をしてもらっている。神経性のものか、どうか、私にはわからぬ。しかし、今までの発病から推して、神経が若干なりとも影響していると思われる。

7月11日(火)

期末考査第2日目。勉強に来ない。少しでも成績が上ってくれればと思う。

7月14日(金)

昨日で考査終る。2年生は北海道修学旅行(7月27日出発予定)打合せ。本人は身体上の理由で旅行不参加を正式に申し出る。

7月17日(月)

1学期の成績がまとまる。やはり最下位。序列はともかくとして、各科目を通じ、1年の時に比べて下ったとも思われないが、向上したとは思われない。

7月20日(木)

終業式、成績簿を1人ずつ個人的に話をして渡す。1年のときより少し進歩しているようだ、頑張りなさいと云って渡す。夕方、本人の母来訪、休暇中M市の叔母の家で暮すとの事。

8月26日(土)

名大付高交歓会にも出席せず。

9月1日(金)

始業式、1学期末とたいした変化なし。それよりやや消極的に見えるかも知れない。叔母の家での生活が本人に負担であったかいなかをいつか聞いてみようと思う。自叙伝を読みかえしてみる。その間の事情判明せず。

9月3日(日)

公務の為2週間出張す。留守を副主任に頼んでおく。

9月19日(火)

勉強に来る。休暇中勉強はやっていたもよう。少しは安心す。力づけておく。

9月22日(金)

教育学部沢田教授(心理)来校す。意志気質テストの指導者である。補導部員と一緒に本人の結果を見ていただき、YGテストと大体同様な所見である事がわかる。

	B	C	D	E	F	G	H	I	J	R	L	M
百分段階	40	10	20	90	40	60	60	80	90	60	0	10

全体としては不定型であるが、決断がおそく、動作、運動に鈍く拡張も少ない。それに反して、自信、決定にやや強く、細心、執心度は極めて低い。しかも、性格がやや消極的であって、多少性格異常の傾向を示している。

9月25日(月)

午後よりソフトボール大会。応援に来ていない。1学期始めの状況と同じである。私の方で自信を失いそうだ。いくら努力しても、同じ事のくりかえしになるだけではなからうか。

9月26日(火)

勉強に来ない。

9月27日(水)

欠席す。

9月28日(木)

欠席理由は腹痛でなく、風邪との事。事実鼻声である。

10月3日(火)

勉強に来る。1学期始めのように、少々の出来でもほめながら指導す。

10月10日(火)

勉強に来る。2学期学校で習った範囲はどうやら一通り眼を通すことができた。本人も何かほっとした様子。

10月11日(水)

ロングのホームルームの時、クラスの生徒と野田山に登る。本人も元気に参加。

(b) 3年a組 T生徒観察指導記録

Y G テ ス ト

S	T	D	C	R	G	A	I	N	O	Ag	Co	K
20	14	20	18	6	2	20	19	20	12	8	20	44

意志気質テスト

B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
50	0	30	100	30	20	10	80	100	70	40	80

YGテストの結果は抑鬱性や劣等感、神経質など比較的高く、不活動でのんきもないので、これらは代表的なN型（神経質型）と見られる。Kが高いので、偽悪的ではあるが。意志気質テストの結果は不定型で思慮型であり、動作と自信が極めて低い。

観察事項

1年、何事に拘らず人のあとにかくれてきわめて遠慮深い行動をとっている。又高校生になってから、急に身体が肥満してきたことを非常に気にかけていた。

2年、1学期、学業成績依然として振わず、学力差からくる自己卑下はいよいよ著しい。

2学期、学友と一緒にスポーツを楽しむようなことはない。自宅でも単独で外出することはなく、模型電気器具の工作で時間をつぶすことが多い。

3学期、卒業後の進路決定で、両親と意見不一致、反抗的態度に出る。

3年、2学期を迎えるや、学習意欲さかんととなり、成績も徐々に向上し、歯科医系よりもむしろ工学部系進学を望むやに積極的意志表示あり。

原因と思われる事項

○本校入学試験には一応失格。後で補欠入学。

○友人なく全く孤独の状態。

○父親は歯科開業医として繁忙のため、成長した本人との談合の機会少し。

○親類（従兄弟）にいわゆる有名大学への進学者多し。

○歯科を修めて父の後継者たるべしとの両親の意見は強硬の趣。

○中学後半より学業不振の徴候ありたるも、母親病弱の時と重なり、その当時の配慮は当を得ざりしもの如し。

指導事項

○適時激励もし、友人問題も画策したりしが成功せず。

○校医診断にて異常体質に非ざること判明。この点本人も納得安心せり。

○老令家庭教師を本校卒業生の学生家庭教師に変更。これは色々の意味で成功の因と思う。

(c) 1年c組 M生徒観察指導記録

YGテスト

R	T	D	C	R	G	A	I	N	O	Ag	Co	K
9	6	20	20	16	8	13	19	18	13	15	12	38

意志気質テスト

B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
80	30	70	90	0	30	20	70	70	30	70	60

YGテストでは気の変わり易い性向が現れており、情緒不安定性である。意志気質テストでは不定型で、特に問題もないが、拡張性が全然ない。

観察事項

小学校時代の先生の影響で共同を非常に重視している。中学時代、生徒会長の経験もあり、かかる仕事に熱心であつた由自叙伝で判明しているが、高校では現在生徒会その他で役職はない。一寸肌が異なるのだ。そこに彼の不満と自己反省がはじまる。2学期、ホーム代表として弁論大会で熱弁を振る。その主旨は中学3年時の彼の目標を再認識することであつたが、その反響は全校生に及んだと思う。それで彼は実行派のレッテルをはられたようだ。こんな時はあまりその行動に慎重な態度のないのを、彼自身認めている。

原因と思われる事項

○教育者の子であるという自覚が目立つ。特に小学校では、母親が同じ学校の教師であるため、自分でかなり束縛を感じていた様子。

- 中学校が田舎であつたため、現在の学校生活では多少劣等感をいだいている。
- 同級生に金持の子が多いと思っている。これは事実と相違しているのだが。
- 付属高校生のあり方に相当批判的な目をむけている。もっとはだかのつきあいがほしいのだ。

指導事項

誤解を解くことが先決。次に本人の持つ野人性を良い形で付高性を持たせることは良いと思う。いつまでこのように少数グループであると異性問題に逃避しそうなので注意して見てゆきたいと思う。

(d) 3年c組 Y生徒観察指導記録

Y G テスト

S	T	D	C	R	G	A	I	N	O	Ag	Co	K
13	14	15	12	1	8	10	10	15	3	9	7	28

意志気質テスト

B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
10	0	0	10	20	20	0	100	90	100	100	100

Y G テストでは特に異常はないが、人といっしょにはしゃぐ気軽なのんきさに乏しく、やや神経質である。しかし、意志気質テストでは運動性進取性が揃って極めて低く、思慮性が極端に高いのは、きわめて神経質で内気な気質であり、不安な状態にあるといえる。

観察事項

1年、よく相談にくるが、話合いをしても納得しにくく、他人に又相談していることを繰返している。常に孤独で、よく考え、悩むようであり、学習も熱心である。しかし、そのポイントが中心からそれているように見受けられるので注意してきた。

2年、学習法が誤っているため、成績が徐々に下降している。次姉の夫の所に相談に行き、1) 女子は学園より家庭が中心であること、2) 何か独立した技能を身につけること、を話されて共鳴、生活の中心がますますそれて行き、生花、茶道、英会話、自動車講習に通う一方、一時、実践倫理会に行き、精神安住を求めたりする面がある。考える事は論理的であるが、その実践がどれも短時間で持続しない点はいつも同じである。

3年、本人とよく相談した結果、洋裁技術を身につけるため、東京の知人の所へ行く。

原因と思われる事項

家庭、中産程度、父母健在、姉二人で特に留意すべき点はないが、家庭内の教育方針にやや不統一の点や、本人まかせの感がある。

交友、特に親しい友人はいない。本人が孤独性というよりは、ややつきあいにくい感じを与えているからである。しかしホーム主任や、他の教師によく相談にくるし、次姉の夫の忠言には特に耳を借すようである。しかしそれが、妥当性を欠くことがあるようだ。

学業、努力している割に成果が表われない。逆に低下している。中心をはずれた学習法に没頭し、要点をおろそかにする傾向がある。

指導事項

全般的には、よく相談に来てくれるが、注意したことに無頓着であり、よく考えて行動するが、一つのことに執心する割に、あっさり投げ出す。数度にわたり、本人及び母と面談を行ってきたが、現在は洋裁学校に行くことにしているので、途中でぐらぐらしないう、強い意志を与えたいと努力している。

(e) 2年b組 H生徒観察指導記録

Y G テスト

S	T	D	C	R	G	A	I	N	O	Ag	Co	K
11	11	9	9	5	9	9	9	10	5	9	8	21

意志気質テスト

B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
10	50	60	70	60	70	30	100	60	60	20	0

YGテストではのんきな点に少し欠けている以外は異常ないが、全体としてよく見せようとする偽善的傾向が少しある。意志気質テストでは決断、執心、細心が低い以外変わったこともなく、積極不定型である。

観察記録

授業その他で、共同生活を行なう上で他人に迷惑をかけるような行動はないが、本人自身、積極性を欠き、明朗さが全くない。人から何か云われると、すぐ赤面し、発表も不明瞭である。私も彼の笑顔を未だかつて見たことがない。何かありそうな感じがする。反抗的ではないが恥ずかしがりである。

原因と思われる事項

交友関係は普通、成績は下の位。身体は小柄である。しかし、以上はあまり原因とは思われず、家庭環境が大きいと思う。父母は健在であるが、姓も違うし、現在別居、それぞれ別な職を持っている。この辺に何か、その性癖が生れているのではないかと思う。

指導事項

個人面接でいろいろ話をするのだが、いつもおどおどして、顔をあからめている。内面的な事にふれるとひどくショックを受けるように見られるので気をくばっている。精神を安定させ、明朗にする必要がある。そのため、偉大な先哲（自己の逆境に打勝って、努力によって開拓した人）の伝記を読むようにしむけている。

(f) 1年a組 M生徒観察指導記録

YGテスト

S	T	D	C	R	G	A	I	N	O	Ag	Co	K
7	13	18	12	3	3	7	16	19	11	2	14	29

意志気質テスト

B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
20	0	60	100	50	50	10	90	100	80	70	10

YGテストはごく軽度の神経質的傾向を示しておる。意志気質テストも不定型で高低が大きな波となっているが、たいした異常性も見られない。運動、自信、執心が劣っているという事ぐらいが、少し変っている。

観察事項

- 自叙伝を読んだり、面接の際の印象で、劣等感、焦燥感、競争心の過剰が感じられ、安定感がなく、夜も寝つかれない事がある。
- 前期ホームルーム委員をやらせたが、積極的活動が見られず、級友から孤立していた。
- 後期ホームルーム委員に選ばれず、ほっとしているよう。消極的協力をしている程度。
- 勉強は4、5時間で、好きらしい。友達も勉強する者ばかりである。
- 暗記力は自信があるが、思考力不足と考えており、試験でも不注意の失敗があるよう。

原因と思われる事項

父が教師で、相当具体的に勉強を指導している。中学時代から常にトップクラスにあり、それが下ると父からひどく叱られるので、常にそれを恐れている。中学入試の際にすでに劣等感をいだいているようである。

高校でも、1学期最高でありながら、すでに大学入試について大いに心配している。楽しみを捨てるのが人間大成の為必要であると考えている。

指導事項

個人面接や父母の会で本人や母にもう少し余裕のある学生生活をするよう希望したが、父の教育方針もあり、なかなかむづかしいと思われる。つとめて、明かるい高校生活を送るよう、本人および家庭の方と絶えず連絡をとってゆくよう心掛けている。

5. 結 び

人が人を指導するということが、どんなに難しいことであるということは論を待たない。しかし、われわれ教師は、生徒の父兄から全面的な信頼のもとに、その学習と生活の指導を任されている。そして、学問と生活において一日の長であるが故に、われわれは愛情と熱意と、そしてたゆみない努力で、少しでも生徒によくしてもらいたい、立派に成長して欲しいと日夜願っている。そこに教師の大きな喜びがひそんでいと信じている。

本研究は、決して人に発表して誇れるものではないが、過去数年間の成果を一応まとめて、読者の皆様の御教示を仰ぎたく、更に今後の継続指導の道標にしたいと思ってここに整理した次第である。

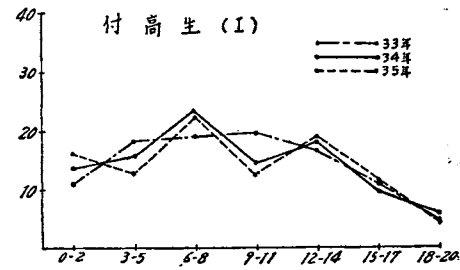
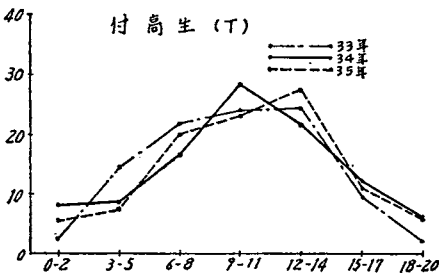
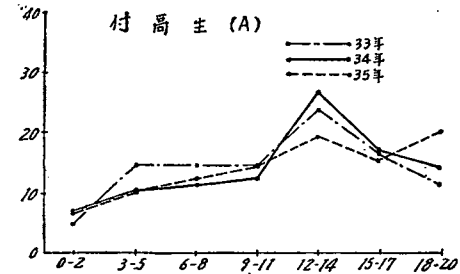
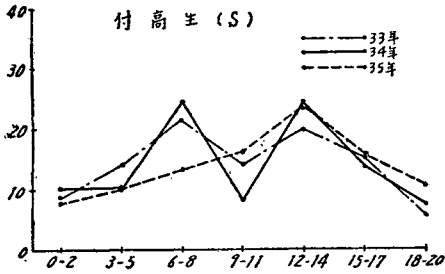
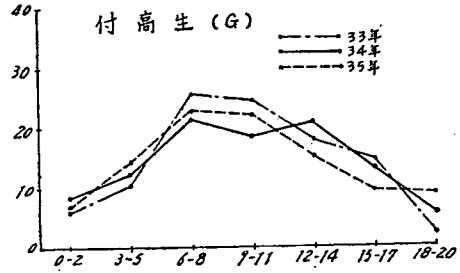
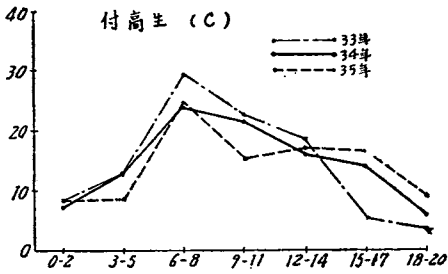
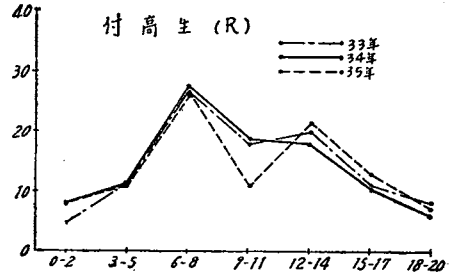
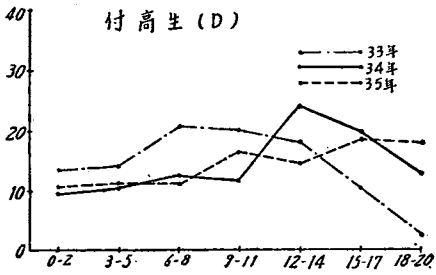
現在行なっている発見の方法や指導についてもまだまだ不備な点がいくつかあろう。今回では意志気質テストにしっかりした自信の持てなかったこと、指導した生徒がはっきりと良くなったという成果が擱めていないこと、あるいは発見の方法でも、教師の側からのみ見ているのであって、心に悩みをいだきながら悶々と苦しんでいるであろう生徒に対してそれらの者が気軽に、しかも心を打明けて相談するしくみが十分に出来あがっていないこと、現に最近、学校が嫌でならないと言って、涙を流しながら訴えて来た生徒もいた。これらはいずれも今後の問題としてとりあげて行きたい。取あえず明年は、今年の継続観察指導を続けると共に、問題を持った生徒が心を打明けて相談できるようなしくみを考えて行きたいと思っている。

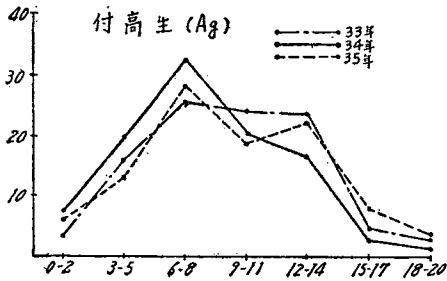
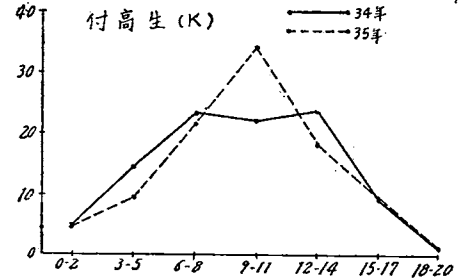
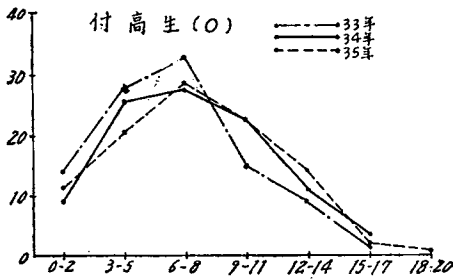
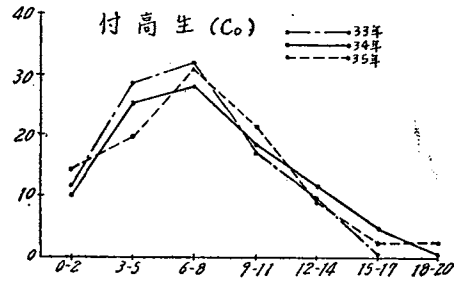
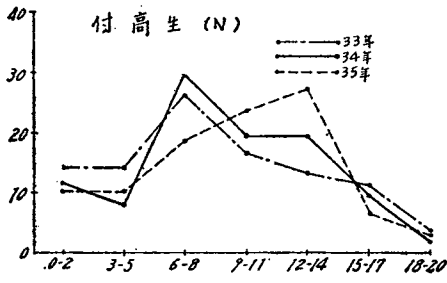
なお本稿を作るにあたっては、補導部教官が一体となって仕事に携ったことは勿論であるが、村上校長、研究部主任出石先生には、全体の構想を作るにあたり、あるいは具体的な作業については、ひとかたならぬ御指導をいただき、厚く感謝申し上げたい。その他ホーム主任の各先生にも、テストの世話や整理に関して、あるいは観察指導記録の整理などに大変御協力いただいたことにも感謝申上げる次第である。このような仕事というものは、全教官と全生徒が一体となってはじめて成しとげられるものであって、その点本校では有利な環境が与えられていると思う。

最後に読者諸氏の厳正な御叱正をいただきさらに有意義な仕事を続けて行きたいと念ずる次第である。

YGテストの性格特性別の相対度数分布図表（百分率）

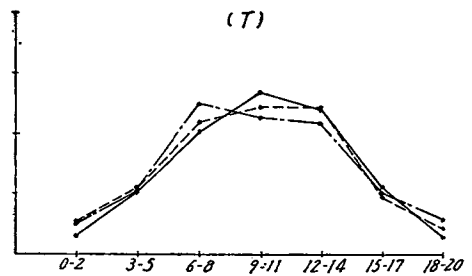
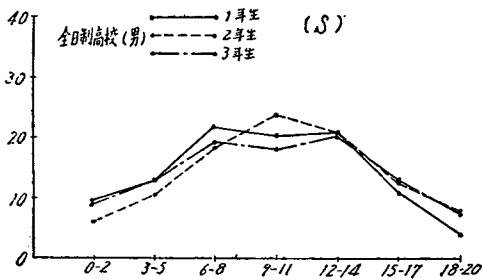
（本校）34年度

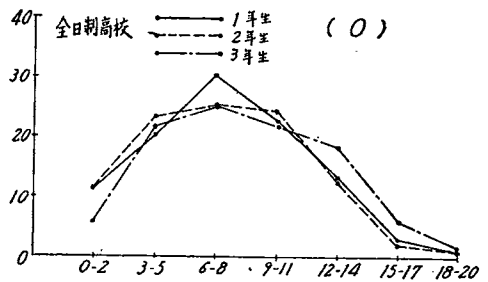
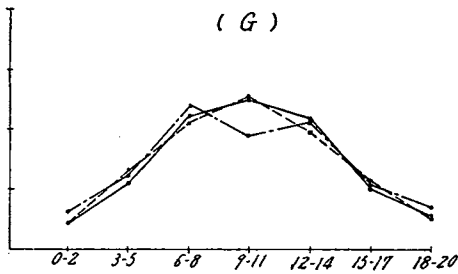
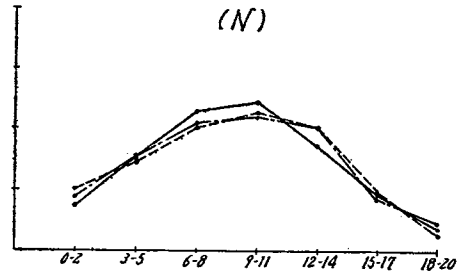
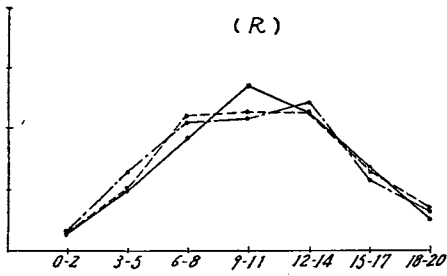
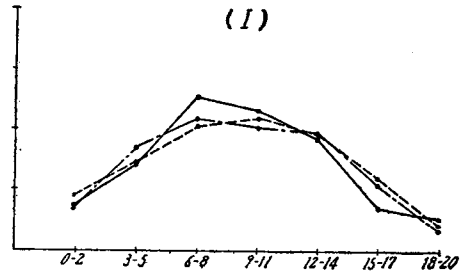
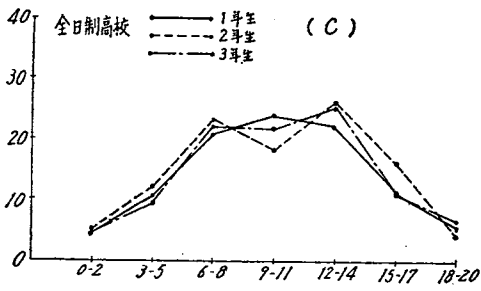
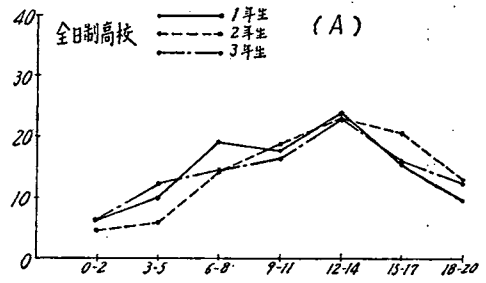
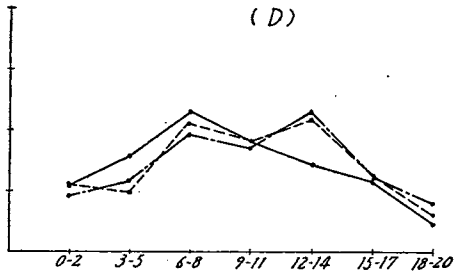


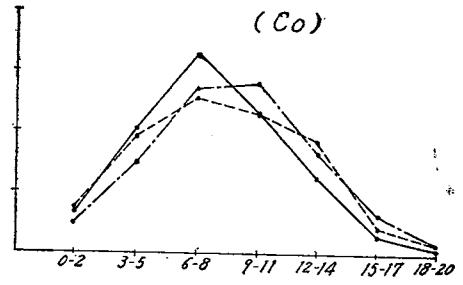
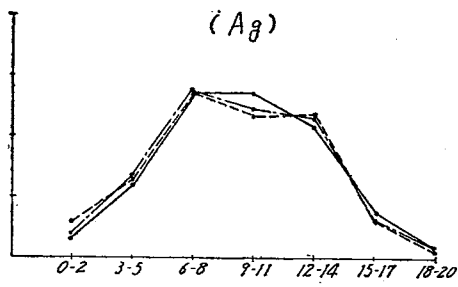


YGテストの性格特性別の相対度数分布図表 (百分率)

(全日制高等)

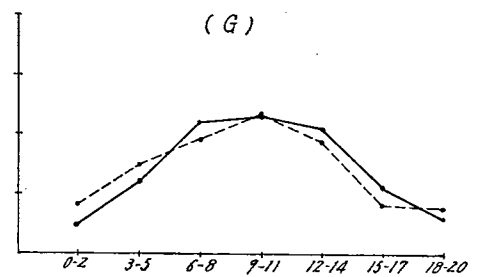
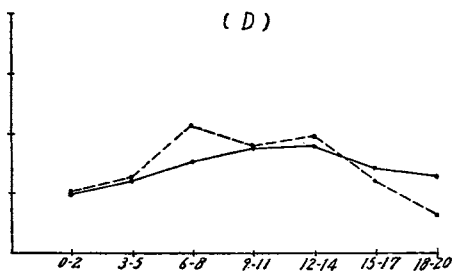
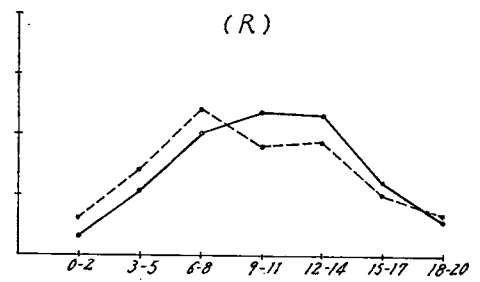
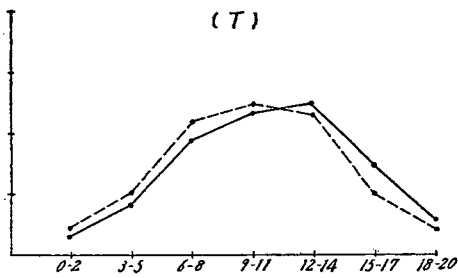
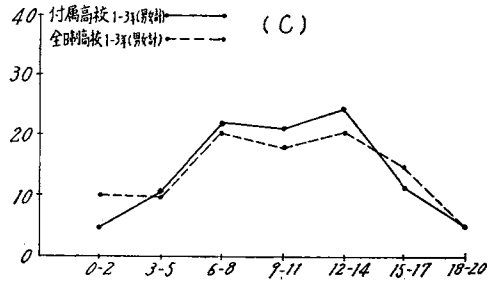
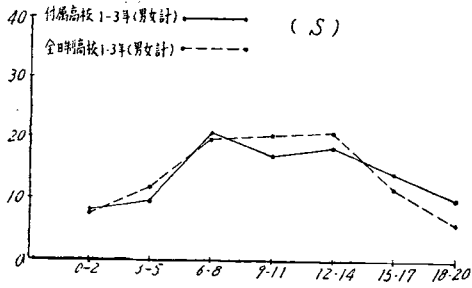


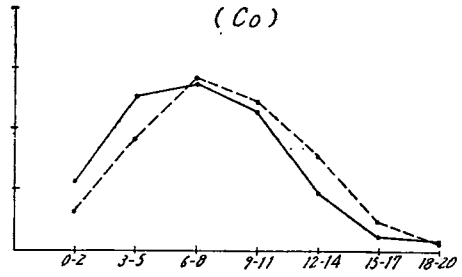
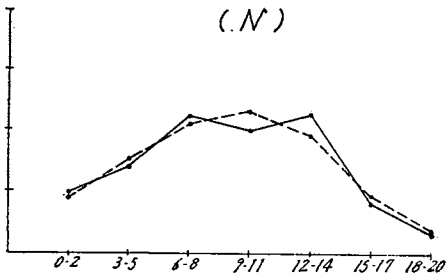
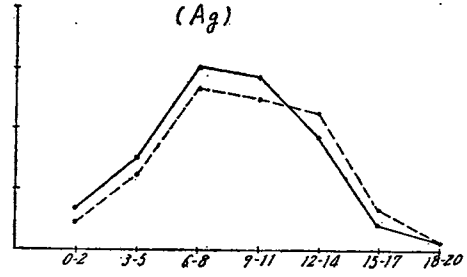
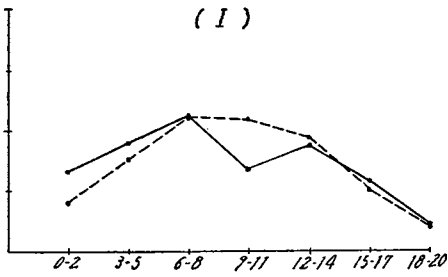
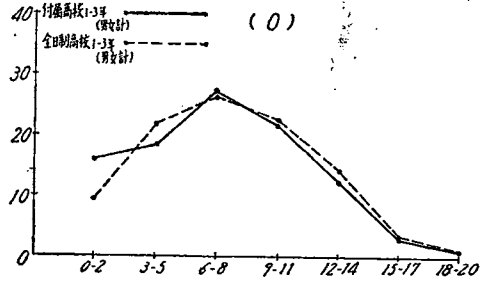
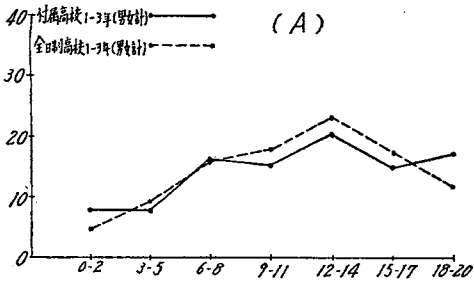




YGテストの性格特性別の相対度数分布図表 (百分率)

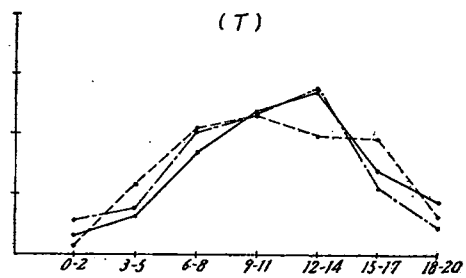
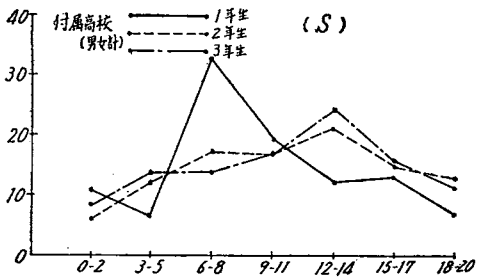
(本校と全日制学校の比較)

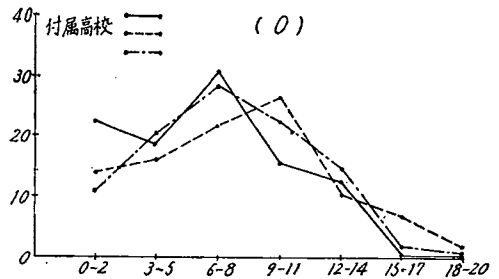
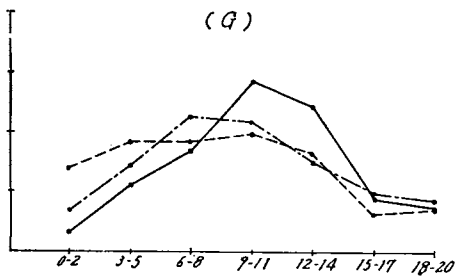
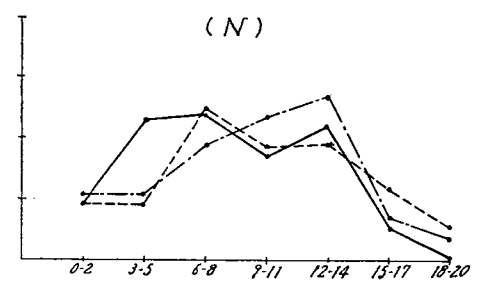
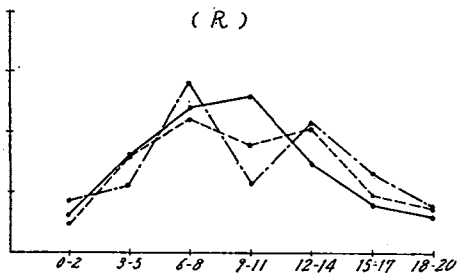
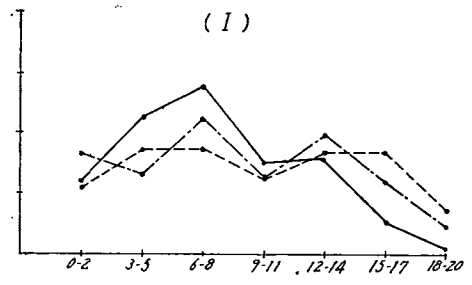
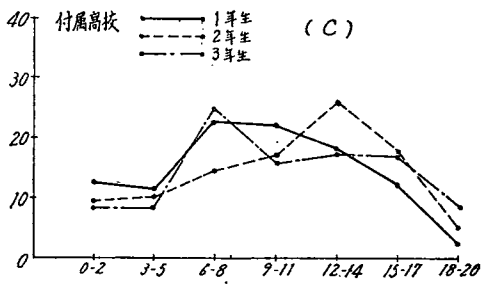
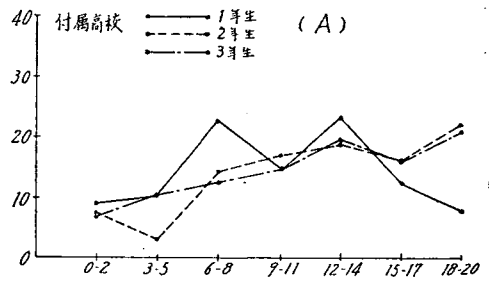
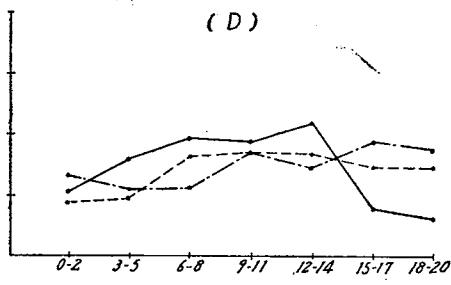


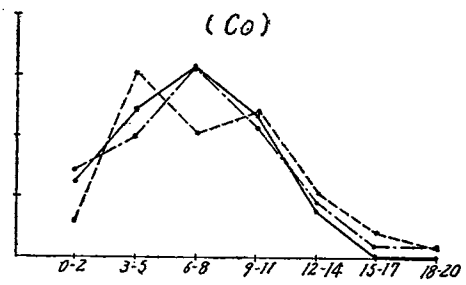
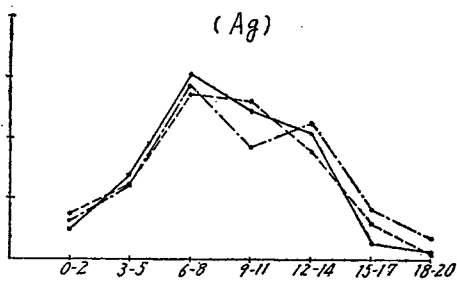


YGテストの性格特性別の相対度数分布図表 (百分率)

(本校各学年別 35年度)





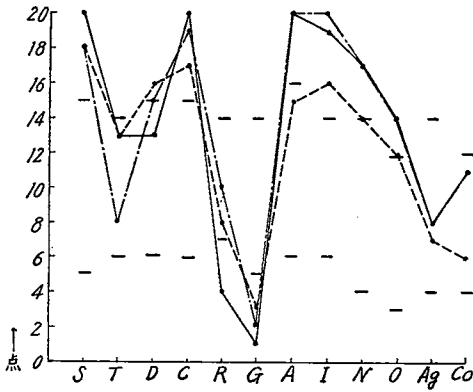


Y G 個 表

女 E 型

智能指数 66

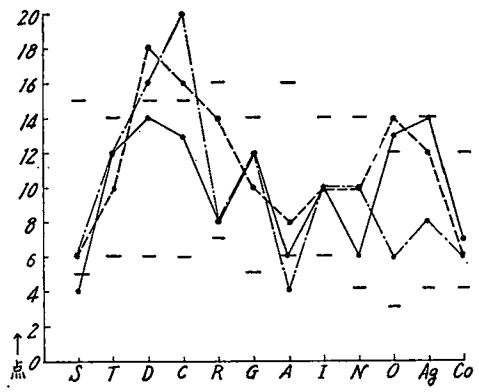
1年(83点) 2年(83点) 3年(88点)



女 E 傾向

智能指数 39

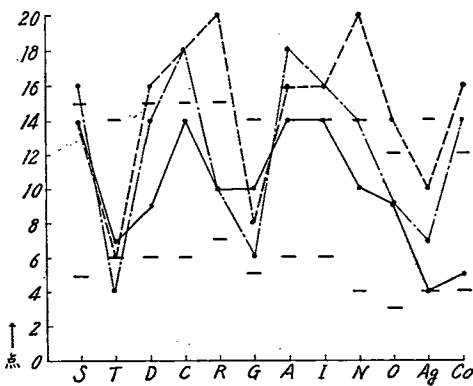
1年(32) 2年(36) 3年(50)



女 S 又は N 傾向

智能指数 66

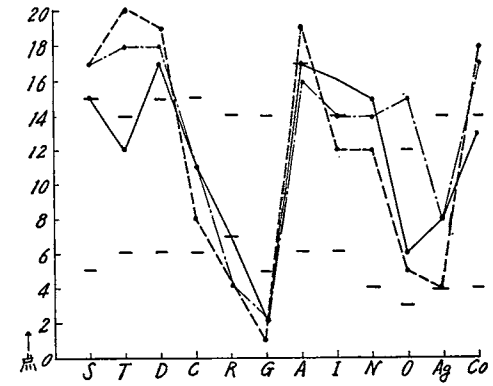
1年(59) 2年(54) 3年(70)



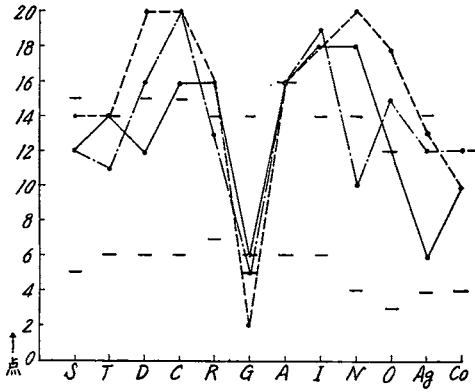
男 非活動的

智能指数 53

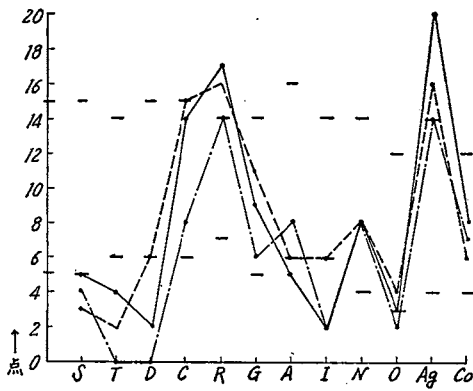
1年(86) 2年(83) 3年(84)



男 N 型
智能指数 58
1年(68) 2年(72) 3年(78)



男 軽S傾向
智能指数 57
1年(66) 2年(61) 3年(56)



男
智能指数 52
1年(51) 2年(45) 3年(49)

